

(公財)日本中体連における『リベロリプレースメント』の変更についての付則

中体連では『リベロプレーヤーシステム』について2004年度に付則を作成し、全国規模で周知・徹底を図ってきました。しかし、2012年度から高体連においても、一般のチーム同様の『リベロリプレースメント』が採用されたことなども踏まえ、2017年度の全国大会より一般のチーム同様の『リベロリプレースメント』を採用することとしました。そこで、スムーズに移行ができるよう「付則」を見直し、資料として配付することにしました。

1. 試合開始前の手続き

(1) 記録用紙に関して

監督は、試合開始前、記録用紙に記載される選手の中からリベロを指名し記録員に伝え、記録員が記入した後、チェックサインを記録用紙に記入する。

(リベロは、試合ごとに変更することができる。)

→ 記録員は、チーム登録として記載した12名の選手名にしたがって、監督から指名されたリベロの名前を転記する。その際、12名の選手名は**消さない**。

(2) リベロの服装に関して

リベロは、チームの他の選手と**対照的な色のユニフォーム**(ユニフォームのデザインは異なっていてよい)、または、ビブス(ゼッケンのようなもの:このビブスは、高さ15cm以上の「L」の文字をつける)を着用しなければならない。

また、リベロが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか、『ビブス』の色を変える必要がある。

→ ①**対照的なユニフォーム**・**対照的**とは「互いに対立する2つの要素がきわだつこと」であり、色の明るさに関係している。

※例えば、正規の選手のユニフォームの袖が黒、胸背部が白とした場合、リベロのそれが、袖が白で胸背部が黒というものは対照的とは言えず、認められない。

→ ②チームのユニフォームに関して、認められる例。

※正規のメンバーを1番～10番、リベロ2名が11番と12番とした場合。

1) 正規のメンバーが白、リベロ2名が赤。

2) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が紺。

3) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤のビブス、リベロ12番が黄色のビブス。

4) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が黄色のビブス。

<できれば、1)か3)が望ましい。>

→ ③リベロがビブスを使用する場合：公式練習が終了してから、ビブスを着用する。

(3) アシスタントスコアラー及び、リベロコントロールシートに関して

中体連では、アシスタントスコアラーを生徒役員が務める場合、2名の生徒役員で各チーム担当を決めリベロチェックを行うこととする。

なお、リベロコントロールシートは、生徒役員がチェックしやすい、中体連独自で作成したものを使用する。(日本中体連バレーボール競技部ホームページに掲載)

2. 試合中

(1)適用される罰則について

リベロは、ラリーの完了から次のサービス許可のホイッスルの前までに交代しなければならない。(サービス許可のホイッスル後に交代することは、拒否されないが口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延の制裁の対象となる。)

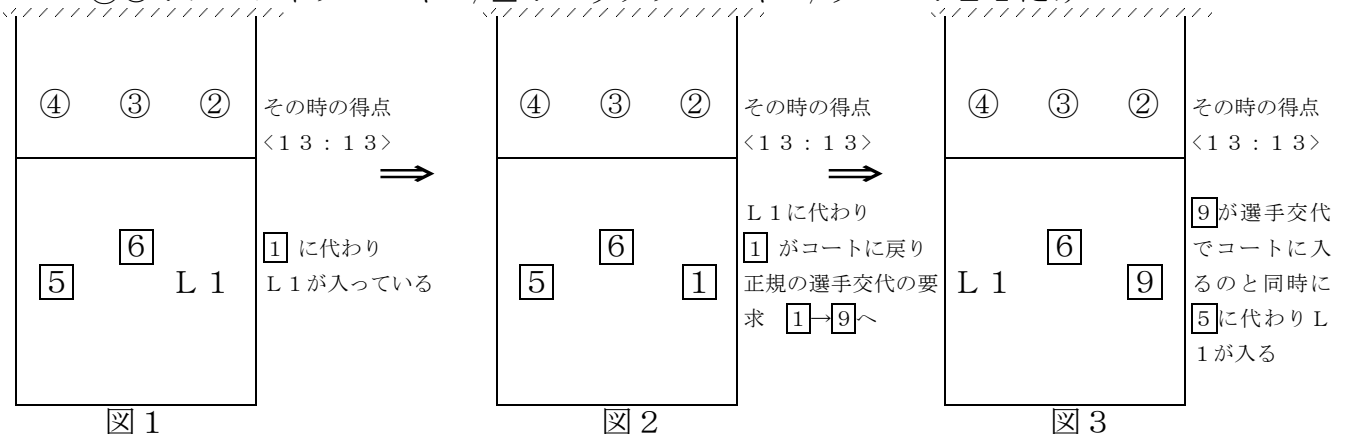
- ①主審は、サービス許可のホイッスル前に、両チームの状況を正しく把握する必要がある。万が一、チームが5名あるいは7名になっている状況では、チームに正しいポジションになるように笛を用いて指導する。
- ②サービス許可のホイッスル後、サービスの実行前にリベロの交代が行われた場合
⇒ そのラリー終了後に、当該チームのゲームキャプテンを審判台の下に呼び、口頭で注意(「サービス許可のホイッスル後のリベロの交代は、遅延 行為となる。この試合で再び繰り返せば『遅延の制裁』を与えることになる」旨)を伝える。
- ③サービス許可のホイッスル後、サービスの実行後にリベロの交代が行われた場合
⇒ ポジションに関する反則を適用する。

(2)リベロの交代でよく起こる反則となるケースについて

リベロが交代してベンチに戻ったら、ワンラリー終了しないと、同じリベロは再び交代してコート内に入ることはできない。

- ①ベンチに戻ったらとは…コートに入るときに代わった正規の競技者(リベロが2名の場合はもう1名のリベロとの交代もある)と再び交代して、コートを離れることを意味しており、実際にベンチに座ることを示すものではない。従って、サイドライン近くで立って待っている場合も含まれる。
但し、代わるべき選手を間違ったときなどは、サービス許可のホイッスル前であればノーコントロールとする。また、中体連では、交替選手の誤りなどを事前に発見した場合、教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に罰則を適用することなく訂正させる。インプレー後に発見された場合は、反則として処置する。

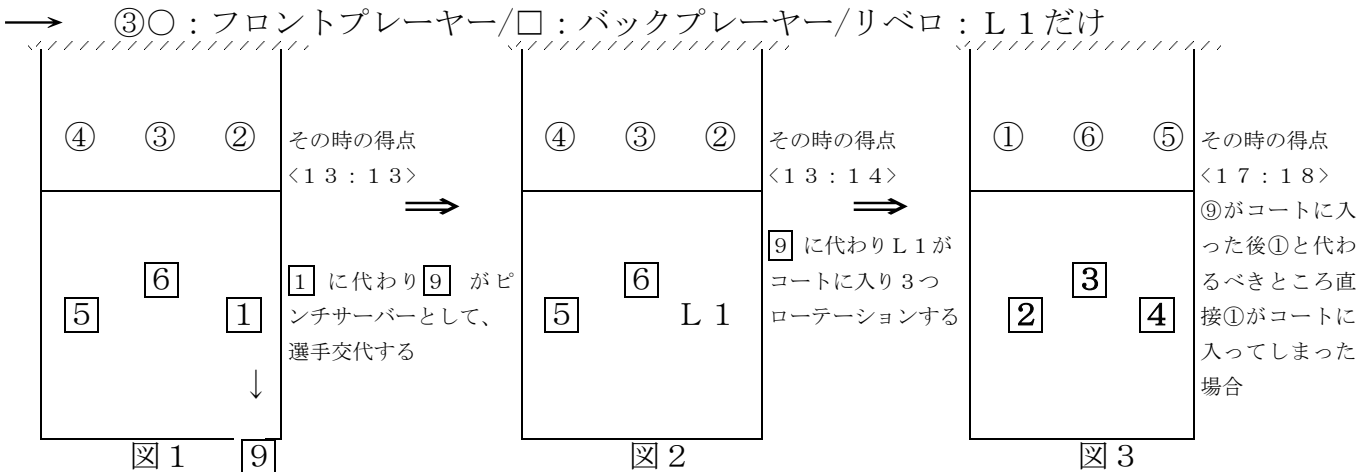
→ ②○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：L 1 だけ



- * 13 : 13の時点で、既に①に代わりリベロ1がコート内にいる。 (図1)
- * ①に代えて⑨をコート内に入れたいためにリベロ1と①を再び代える。 (図2)
- * 13 : 13の同一中断中に①に代えて⑨の選手交代を要求すると同時に ⑤に代えてリベロ1がコート内に再び入る。 (図3)

☆＜処置の仕方＞ 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。
- ii) アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合も i)と同様に処置する。
- iii) 審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。
- iv) 審判団が発見できず、試合が続行した場合は、何の反則も適用しない。



☆＜処置の仕方＞ 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。
- ii) アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合も i)と同様に処置する。
- iii) 審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。
- iv) 審判団が発見できず、ローテーションが繰り返され⑨がサーバーとなるべきところで、①がサーバーに出てきて、記録用紙から発覚した場合は、規則7.7.1・2に則り、罰則を適用する。

(3)リベロの交代する場所について

リベロおよびリベロと交代する選手は、チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン（“リプレースメントゾーン”と名付けられている）からコートに出入りする。

- ①中体連では、1チームにつき最大限12名までの登録ができる。その12名のうちリベロとしての登録は0・1・2名のいずれかをチームが選択する権利を持っている。これまでの取り扱いにおいては、リベロの交代に際して2組4名がリプレースメントゾーンに並ぶことがあったが、今後の取り扱いでは認められない。しかし、リベロ同士が交代することもあることなどから、チェックミスを防止するため、これまで同様、リベロと相対する競技者は、必ずサイドライン上で一旦立ち止まる(つま先をそろえる)ように指導を継続する。
- ②サイドライン上で一旦立ち止まらずに交代してしまう場合の処置
 - *その場でやり直しをさせたりせず、間髪入れずに「止まる」ように指導する。
 - *指導後も繰り返される場合でも、罰則は与えず指導を行う。
 - *エンドラインから交代などの場合も指導する。